

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400648		
法人名	有限会社 水谷		
事業所名	グループホーム すまいる水谷		
所在地	岐阜県羽島市下中町市之枝2丁目408番地		
自己評価作成日	令和5年2月10日	評価結果市町村受理日	令和5年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/7/index.php?act=on_kouhou_detail_022_kan1=true&kyouvoQr=2170400648-008&vi.ceQr=320&type=sear.ch
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和5年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用定員は6名と少人数で、家庭的な介護サービスを提供できる事が強みです。ご家族の負担を極力軽減できるよう、通院は往診の利用者1名を除き、事業所で対応しています。新型コロナウイルス感染防止対策については、入室時の検温と手指消毒を徹底し、現在まで利用者及び職員共に感染者は発生していません。面会は楽しみにされている利用者もあり、ご家族のみに限定し許可しています。6名のうち4名の利用者が85歳を超えられていますが、経営理念である「安全・安楽」を念頭に、健康の維持管理を優先し日々のケアに努めています。ご家族、利用者の希望があれば施設での看取りも行っていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者一人ひとりの思いを大切にして、安全で心地良い状態で穏やかに過ごすことができる環境を心がけて取り組んでいる。管理者は、ケアをする前に必ず声をかけ、次は何をするのかを伝え一呼吸してから介助を行うように、利用者を尊重して個々のペースに合わせるよう指導している。管理者と職員は、何でも気軽に話し合える関係を築いている。代表者と管理者の住まいが事業所敷地内にあり、自治会や近隣住民とも馴染みの関係で地域の一人として交流している。在宅時からのかかりつけ医を継続している利用者の受診支援を事業所が行い、家族の負担軽減にもなっている。管理者が看護師であり、かかりつけ医との連絡や利用者の状態の変化など、健康管理について本人、家族、職員も安心できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安全・安楽」の経営理念を玄関に掲示し、利用者から終の住処と覚えてもらえるように「いつまでもお元気で楽しく暮らして」いただけるホームを目指しています。	理念に添い利用者一人ひとりが、心地よく安全な状態で過ごせるように取り組んでいる。管理者は、日々のケアが理念に繋がるように声かけや指導をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くにベーカリーが開店したので、散歩に出かけた折パンを購入して、地域住民の方にはこちらから挨拶するよう心掛けている。	散歩時に近所の人と挨拶を交わしたり、「介護の悩みなど相談にのりますよ」と話しかけたりしている。また、民生委員より独居老人の様子を聞き、安否確認の声かけもしている。近所の人に野菜をもらうこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員さんとの連絡を密にして、地域の高齢者夫婦、軽度の認知症の方々、独居老人の情報を共有している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で会議開催を中止して、利用者の状況は面会時やメールで連絡している。書面会議も開催し報告した。	コロナ禍のため書面で運営推進会議を開催している。地域の人より事業所から大きな声が聞こえ虐待を疑う意見があり、状況を確認してもらい解決した。運営推進会議の開催が年2回であった。	運営推進会議は概ね2カ月毎に開催することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ご家族からの要請を受け介護認定更新手続きの申請や主治医の意見書写しを受領している。又、生活保護受給家族についても相談している。包括支援センターや市民病院の生活相談員には空室状況を報告している。	連絡は電話やメールで行っているが、毎月必ず出向くようにして、担当者としやすい関係を築いている。利用料の支払いや生活保護者の褥瘡用のクッションの購入などの相談に出向いている。市の研修や会議に参加している。空き状況の問い合わせもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、ホームの理念に基づき職員にもしないケアの実践の徹底を図っている。床マットセンサーも活用して、事故防止に努めている。玄関の施錠は夜間以外はしていない。	前回の外部評価の目標から身体拘束適正化のための指針を整備し、定期的に委員会と勉強会を開催して拘束のないケアに取り組んでいる。不適切な対応やスピーチロックに関しては、何を優先するかを考え、利用者に関する納得してもらえる言葉かけをしてから行動するように指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が常駐、毎日のケア状況をチェックし、言動での虐待が無いかも確認している。アンケートに回答して、大学より提供される動画視聴による研修を計画している。		

グループホームすまいる水谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身寄りのないご利用者が、入所していた障害者施設の依頼により、成年後見制度を利用するとの報告があり、具体的な対応方法の知識が深まった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は利用契約書及び重要事項説明書について説明を行い、疑問点がある場合や改定時には随時理解と承認を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から訴えや要請があれば、どのような対応が望ましいかを管理者が独りよがりにならず、担当者会議で検討し実践している。運営会議書面開催でも、要望をお伺いするようにしている。	面会時や毎月請求書を郵送する際に、写真と利用者の様子を書面で知らせ、家族より意見や要望を聞いている。外出希望や備品の整備など職員と話し合っ家族の要望に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からその都度連絡を受け対応し、申し送りノートに記入し情報を共有している。併せて意見や提案をもらい、必要があれば担当者会議等話し合いの場を設け、周知徹底している。	利用者の嚙下状態に応じた食事形態の変更、事故やヒヤリとした事、職員がケアに不安を感じた時など、必要に応じて話し合いの機会を持ち検討して職員の意見や提案を取り入れて改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務はシフト制を採用せず、休日希望を事前に確認のうえ勤務表を作成し満足を得ている。介護職員処遇改善支援補助金を有効活用し、昨年2月より時間給の改定と、賞与も増額支給した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しく義務化される「認知症介護基礎研修」については、資格がない職員にはオンライン研修(ZOOM等)を利用し受講する、具体的な計画を立てる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県GH協議会及び日本認知症GH協会に加入しているが、コロナ感染防止のため研修や会議の開催が見送られ、交流する機会に恵まれていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを十分に実施し、ご利用者の置かれた状況や要望を理解したうえで、ケアマネージャーや病院から看護サマリーを頂き、主治医意見書と認定調査票等を行政より提供を得て、有効に活用している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者および家族の状況と不安な点を細かく傾聴するとともに、ホームでの生活で何が出来るかを説明し、スムーズに入居いただけるよう支援している。要望があれば、お試し入居をお勧めしてスムーズに進んだケースもあった。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容により認知症が軽度であれば、デイサービスや他のサービスの利用についても説明し、最適な選択が出来るよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ場所、時間を共有することにより利用者個々の気持ちを理解し声かけを積極的に心掛け、洗濯物たたみ等をお願いしている。時々利用者からも「何かできる事はないか？」と申し出がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密に取り、利用者の思いを感じていただけるよう、コロナ感染防止をお願いし最低限の外出を許可している。オムツ等生活消耗品の持込を可能として、訪問頻度を高めてもらえるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来所時に近況をお知らせしたり、電話対応にも注意し、利用者が気持ちよくお話が出来よう支援している。お友達や馴染みの方の訪問はコロナ禍のため、ご遠慮いただいている。	帰宅願望のある人には、馴染みの喫茶店に出かけている。家族の協力で墓参りや買い物に行く人もある。電話の取り次ぎは、子機に切り替えて居室で話しやすいように支援している。手紙を書く人には、ハガキを用意したり、宛名書きなどの代筆をしたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員と相談しながら、座席の位置を変更したりして問題解決が図れるよう見守りしている。仲介が必要と判断した場合のみ対応し、男性・女性を問わず良好な人間関係が保てるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により利用者が退所された後も、入院中はコロナ禍で面会謝絶が多いので、ご家族に状態の確認をしている。入院されても退院が見込まれる場合は、一定期間居室を確保し待機するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定員6名の小規模事業所の強みを活かし、利用者のご家族が希望される生活が出来るよう、利用者本人の状態や性格も十分に把握し、気持ちを汲取り対応している。	日常生活の関わりの中で信頼関係を築き、言いやすいように話しかけて思いを聞いている。散歩や入浴時、居室などで個別に聞くこともある。面会時にも、家族に利用者の様子を伝え要望がなかったか確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族、ケアマネ及び関係機関から情報を収集し、これまでのサービス利用を把握して、利用者との馴染みの関係を気づきながら、日々の暮らしに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康状態と食事状況を個々に記録し、状態を把握している。I型糖尿病の利用者は、血糖値の測定とインスリン接種を目標で管理、状態の変化を記録し受診時に持参、医師の指導を仰いでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人、ご家族、ケアマネ、職員(ケアマネ資格者含む)と話し合い、主治医と連携を取りながら、介護計画を作成している。介護度の進行に伴うケアプランの見直しも行っている。	家族、利用者の希望を含め、定期的に行うモニタリングを基に、利用者が何を必要としているかなどを職員と話し合っって計画書を作成している。かかりつけ医の意見もその都度聞いている。状態に変化があった際は、随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの結果について記録し、職員間で変化を共有しつつ、実践や介護計画の見直しに活かしている。申し送りノートにも記録し、確認のサインをすることで情報共有の徹底を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度ご家族と連絡を密に取り、状況を説明、相談しながら柔軟な対応を行っている。エアマットや離床床マットセンサーも必要であればご家族に相談し、導入している。		

グループホームすまいる水谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じ、民生委員や包括支援センターと連携を取り協力を得るようにしている。地域行事にも極力参加できるよう努めているが、コロナ禍で殆んど開催中止が継続中である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を最優先し、事業所とかかりつけ医とは十分な連携があり、適切な医療や指導を受けている。往診以外の利用者5名の通院対応も全て事業所に対応している。	利用者、家族の希望により入居前のかかりつけ医をそのまま継続している。受診の付き添いは、家族の負担軽減となるように管理者(看護師)が同行して受診結果を家族に報告している。急変時も家族に連絡して事業所に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤兼務の看護師が介護職員と連携を取り、日々の健康管理について記録し、かかりつけ医受診時に情報提供し指導を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された場合は介護サマリーを提供し、管理者が(看護師兼務)度々病院に出向き、担当看護師や病院関係者に容態を確認、生活相談員や主治医とも連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については看取りの指針に基づき、家族の意向を尊重し、延命治療の可否やケアについて検討している。家族から施設での看取りの希望があれば、身体的、精神的苦痛を少しでも緩和できる様ケアに努め、受入れ対応している。	入居時に重度化や終末期の方針を説明している。状態の変化に応じて管理者より家族に説明をし、意思の再確認をしながら今後の方針を話し合っ終末期の支援に取り組んでいる。かかりつけ医の往診が不可能な時は、事業所のできる限界までの支援をして医師の指示のもと病院に救急搬送をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には、敷地内に居住する管理者(看護師)への緊急連絡を徹底している。職員には利用者の状態を的確に報告、説明ができるよう指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー、火災通報設備等の保守点検は毎年7月に受け、機器の取扱い等の指導と訓練を実施。水害時避難確保計画の作成は完了したので、訓練実施を計画する。	避難訓練を実施しているが、日中のみであり夜間想定避難訓練の実施がない。災害時には協力体制を築けるよう地域に依頼している。食料品、オムツなどの備蓄はある。	災害時、特に夜間は夜勤者が一人であり避難誘導が困難である。地域住民との連携を継続し夜間想定避難訓練を繰り返し実施することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格とプライバシーを尊重し、介護職員にも個人の尊厳を大切に、否定的や自尊心を傷つける言葉を使わないよう徹底している。特に排泄・入浴時にはプライバシーに注意している。	トイレや浴室の扉は、必ず閉めるように気を付けている。居室には、ノックをして声をかけから入るようにしている。排泄や入浴支援をする際は、次に行う行為を言葉で伝え一呼吸してからケアをするよう指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で会話や行動などで判断し、思いや行動を汲み取り、自己決定できるように援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護職員は各ご利用者の生活や活動ペースを尊重して見守りしている。またナースコールを有効に活用し、介助等が重複した場合には待たせる利用者に声かけを徹底している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の希望があれば訪問理美容を利用し、3カ月に1回程度整髪を行っている。また通院等を良い機会と捉え、身だしなみを整えるよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方にはテーブル拭きや食材の下準備を手伝って頂いている。利用者と職員と一緒に食事することはスペース的に不可能であるが、メニューは要望を聞いてパン食も取り入れている。	業者の管理栄養士が考案する高齢者向けの献立の材料を外注している。利用者の希望や行事食は食材を止めて対応し、誕生日にケーキで祝ったり、旬の果物を添えたりして食事を楽しんでいる。週に1度はパン食に変えている。利用者の病状や嚥下状態に合わせた食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量、水分量等を把握し記録している。退院後嚥下力が低下した利用者には、お粥等別メニューで対応。尿カテ利用者もあり、水分摂取量と尿量を日に数時間毎計測し、受診時に主治医に報告している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけをして、その方に合わせた口腔ケアと入れ歯の洗浄及び消毒を実施している。		

グループホームすまいる水谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前等時間を見て誘導したり、尿意、便意のある方はサインを見逃さずケアを行っている。常にリハビリパンツが快適な状態を保てるよう定期的に確認している。	食前や個々の様子を見てトイレに誘導している。夜間も出来る限りトイレでの排泄を支援している。布パンツ、リハビリパンツ、オムツの人も常に快適な状態で過ごせるように取り組んでいる。退院時にオムツ使用の方が、トイレでの排泄支援をして改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩等、体を動かしていただくよう支援している。また水分補給に努め、おやつも考慮している。排便管理記録表に基づき薬剤が必要となった場合には、医師の指示により服用し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は利用者の希望を受け入れて対応、職員がマンツーマンで入浴介助にあたり、楽しんで入浴できるように入浴剤、季節により菖蒲湯や柚子湯にして対応している。	入浴の時間や順番、好みのシャンプーを使うなど利用者の希望に合わせて支援している。入浴剤で温泉気分を味わったり、菖蒲や柚子湯で季節を楽しんだりしている。入浴を嫌がる人には声かけを工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者それぞれの日々の特徴や習慣を把握し、個々の生活パターンを尊重しながら、精神的に安らげるよう職員の声かけなどで工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者兼看護師が服薬を管理し、内容を職員に説明している。また症状の変化には十分注意し、異常が認められる場合には管理者が連絡を受け、主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みでぬり絵やパズルをしてもらっている。テレビはリビングか個室でかは利用者が選択し、視聴してもらっている。又、可能な利用者には洗濯物畳みや食器拭き等を依頼している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や利用者の体調に配慮しながら、可能な時はマスクを着用し戸外に出かけ散歩するように支援している。家族との定期的な外出や外食は、コロナの影響で極力自粛してもらっている。	天気の良い日は、近所のパン屋さんやお寺付近まで感染対策をして散歩に出かけている。コロナ禍でも気分転換を図り、桜、アジサイ、ひまわり、コスモス、紅葉などを見に外出し季節を感じられるように支援している。	

グループホームすまいる水谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や能力、経済状況に応じ支援する方針であるが、家族の意向と利用者の認知度により、原則お金は所持していない。利用者が買物を希望される場合には同行し、家族の同意を得て実費請求で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談しながら、友人等から手紙を頂いた時には返信できるよう支援している。携帯電話を所持されていない利用者には、必要であれば施設設置の電話を無償で利用可能としている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日勤者が出勤時は、施設共用空間の清掃から始めて清潔に保ち、不快感を感じないように配慮している。天窓から自然光も差し込み、季節の花や飾り物をする等して、ゆったりと過ごしていただけるよう努めている。	玄関で季節の花を育てている。利用者と一緒に作成した四季の作品を飾り、廊下には物を置かないよう安全に配慮している。消毒や換気、掃除をこまめに行い感染予防対策をしながら快適に過ごせるよう心がけている。ソファで新聞を読んだり、テレビを見たりして思い思いに過ごせるように支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファを使ったり、利用者の習慣や能力により、自室と使い分けが出来るよう配慮している。新聞も好きな時に読めるよう用意している。車椅子利用者は、本人の思いを尊重し行動している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家から持参したタンス、家族の写真等を飾り、居室のレイアウトは利用者や家族それぞれの好みにお任せしている。収納物は一目でわかるよう心掛け、居室にテレビの持ち込みは拒まず、BSを除き無償で視聴いただいている。	テレビ、タンス、布団など使い慣れた物を持ち込み、本人が作成した作品、ぬいぐるみ、家族写真などを飾っている。タンスは取り出しやすいように下着、タオルなど分類表示をしている。安全に配慮し、本人が使いやすい位置に家具や備品を置き、過ごしやすい環境にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで手摺も設置し、安全かつ自立した生活が送れるようにしている。一人ひとりの能力に応じてADLが維持出来るように、歩行訓練やトイレ誘導をしている。		